

学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例（令和6年度版）

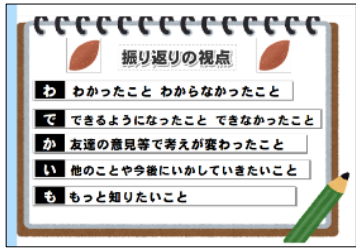
学校名	枕崎市立立神中学校	児童生徒数	108 人
-----	-----------	-------	-------

○ 令和5年度 振り返りの実際

成果
「枕崎市の授業づくり3ポイント」における「ラスト10分の充実」を図るために、「何が分かったのか」「何ができるようになったのか」「どのように学んだのか」という「学習のゴール」をもとにした振り返りを行った。 - 振り返りを自己評価として記号等で表すだけでなく、言語化するようになった。

課題
- 各教科で教科の特性に応じた振り返りができるよう授業者が工夫していたが、学習者がわかりやすいように振り返りの視点を明確にする必要性があった。 「まとめ」や「振り返り」を自分の言葉でまとめることに時間がかかったり、苦手としたりする生徒がいて、時間を確保して書くことを習慣付けることが必要であった。

○ 令和6年度 振り返りの実際

改善策
生徒が各教科同じ視点で振り返られるように、「わでかいも」をラミネートしたカードを各教室に掲示した。また、事前にロイロノートの資料箱に共通したカードを準備し、教科担任が観点を設定して生徒にカードを送るようにしたり、作成した単元全体を通した振り返りシートに観点を位置付けたりした。

成果等
- 事前に観点を示して振り返る活動を計画的に設定したことで、80字～100字程度の文字数で書く習慣が身に付いてきた。 - 写真や動画などの学習の成果物を蓄積することで、生徒が成長の過程をいつでも確認することができ、それぞれが既習内容等を振り返りながら主体的に課題解決に臨む姿が見られるようになってきた。 - 鹿児島学力・学習状況調査における「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」という設問において、中2の肯定的回答が昨年度より9.5ポイント上回った。
